

令和元年度
全国公立大学学生大会
LINKtopos 2019
in Kochi
～共創 それぞれの一步先に～
報告書

日程 令和元年9月3日(火)～5日(木)

会場 高知県立幡多青少年の家



公立大学学生ネットワーク

LINK topos

目次

はじめに	1
1 大会プログラム	2
2 参加者の対象と推移	3
3 活動内容とその成果	
3.1 大会1日目	
3.1.1 オリエンテーション.....	5
3.1.2 ポスターセッション.....	5
3.1.3 大会1日目アンケート結果／参加者の声.....	7
3.1.4 大会1日目総括.....	9
3.2 大会2日目	
3.2.1 スタートアップ.....	10
3.2.2 黒潮町長講演／フィールドワーク.....	12
3.2.3 ワークショップ概要.....	13
3.2.4 ワークショップ詳細.....	14
3.2.5 大会2日目アンケート結果／参加者の声.....	17
3.2.6 大会2日目総括.....	22
3.3 大会3日目	
3.3.1 地区別 LINKtopos.....	23
3.3.2 クロージング.....	29
3.3.3 大会3日目アンケート結果／参加者の声.....	30
3.3.4 大会3日目総括.....	31
3.4 プログラム全体をとおして	
3.4.1 プログラム全体のアンケート結果／参加者の声.....	32
3.4.2 プログラム全体の総括.....	34
4 次年度以降の大会開催に向けての課題と提言	35
5 全国公立大学学生大会の今後の展望	35
6 謝辞	36

はじめに

公立大学学生ネットワークが発足してから今年度で 8 年目となる。東日本大震災をきっかけに発足してから我々の活動は「災害・復興支援について公立大学が出来ること」から「公立大学同士での地域活動の連携強化」にシフトしつつある。昨年度の大会では公立大学同士で同じような活動をしている団体は全国に視野を広げれば多くあり、自身らが抱えている課題はその他の地域で同様の活動をしている団体に相談をすれば解決に近づける、という全国での「繋がり」を強化できる内容となっていた。また、自分たちの活動をしているだけでは出逢えない、全国の仲間と出逢い、日ごろの活動を共有しあい、想いをかたり、未来を描きあえるという機会でもあることに魅力を感じた。

そして、今年度の大会では開催地として、防災先進自治体である高知県・黒潮町が選ばれたこと、また、2021 年は東日本大震災から 10 年の年であり、この 2019 年から 2021 年に繋げるということから、LINKtopos の原点である「災害・復興支援について公立大学が出来ること」にまた焦点を絞り直し、「防災を学ぶ」ことに主軸を置き、そして、学生たちが大会を経て防災についてより学びを深めて頂き、より彼らの道にとって一歩先に進めるよう、コンテンツを考えた。

LINKtopos2019 代表 大阪市立大学 法学部 3 年 中山 一仁



1 大会プログラム

<大会1日目>

16:40~17:30 オリエンテーション
17:30~18:30 夕食
18:30~20:30 ポスターセッション
20:30~ 入浴/自由時間/就寝

<大会2日目>

06:30~06:50 起床
06:50~07:00 朝の集い
07:00~08:00 朝食
08:00~08:30 スタートアップ
08:30~09:20 移動/写真撮影
09:20~11:00 町長講演
11:00~12:30 フィールドワーク
12:30~13:30 昼食
13:30~14:00 フィールドワーク振り返り
14:00~17:30 ワークショップ①
17:30~18:30 夕食
18:30~20:30 ワークショップ②
20:30~ 入浴/自由時間/就寝

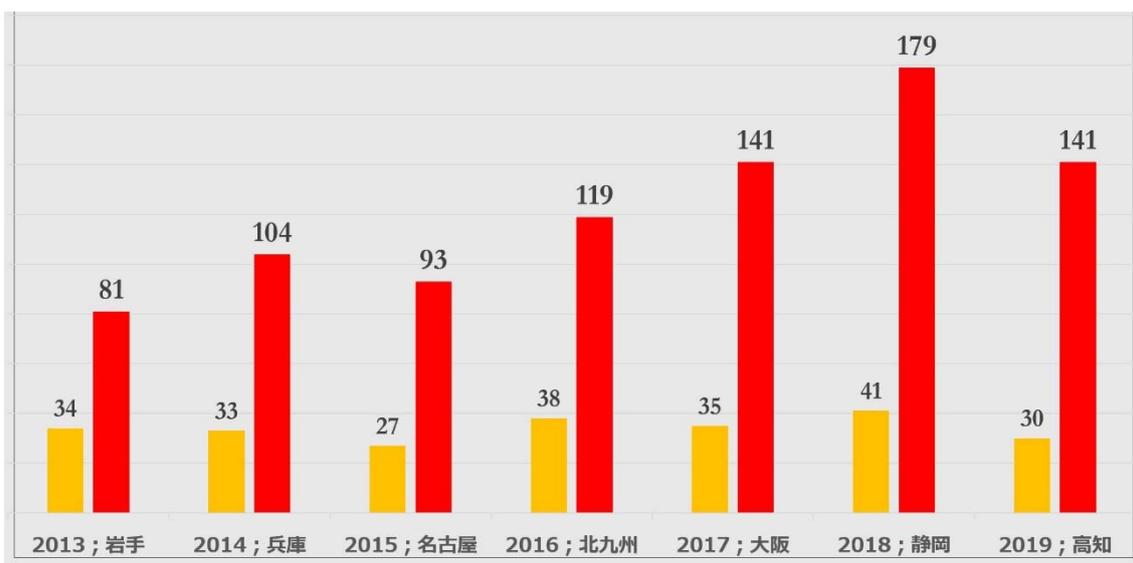
<大会3日目>

06:30~06:50 起床
06:50~07:00 朝の集い
07:00~08:00 朝食
08:00~08:30 退所点検
08:30~11:00 ワークショップ③ (発表→講評)
11:00~12:00 地区別 LINKtopos
12:00~13:00 昼食
13:00~14:00 クロージング

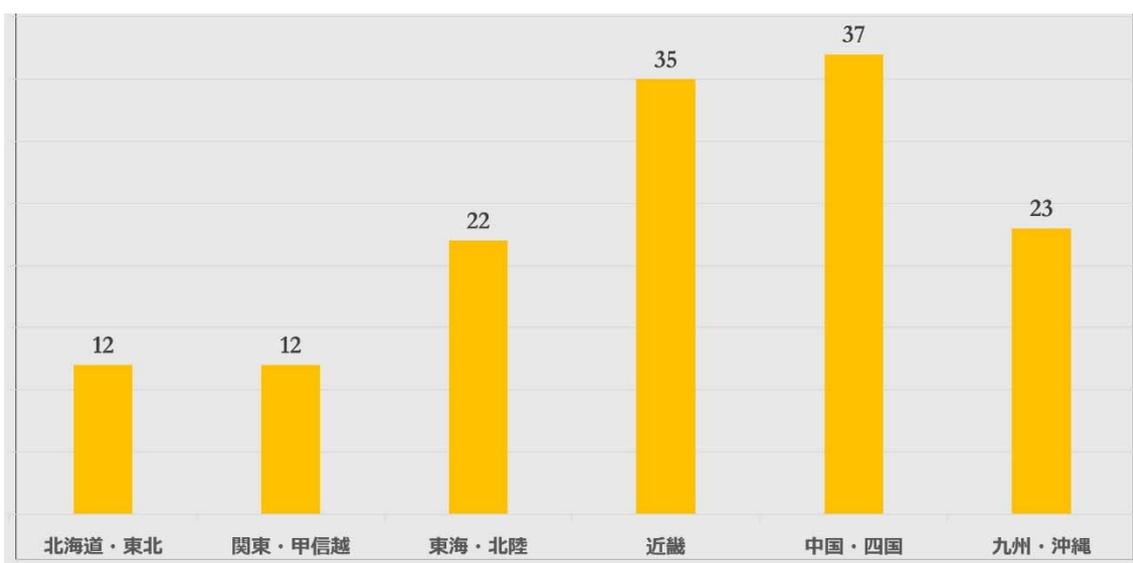
2 参加者の対象と推移

【LINKtopos2019 代表 大阪市立大学 法学部 3年 中山 一仁】

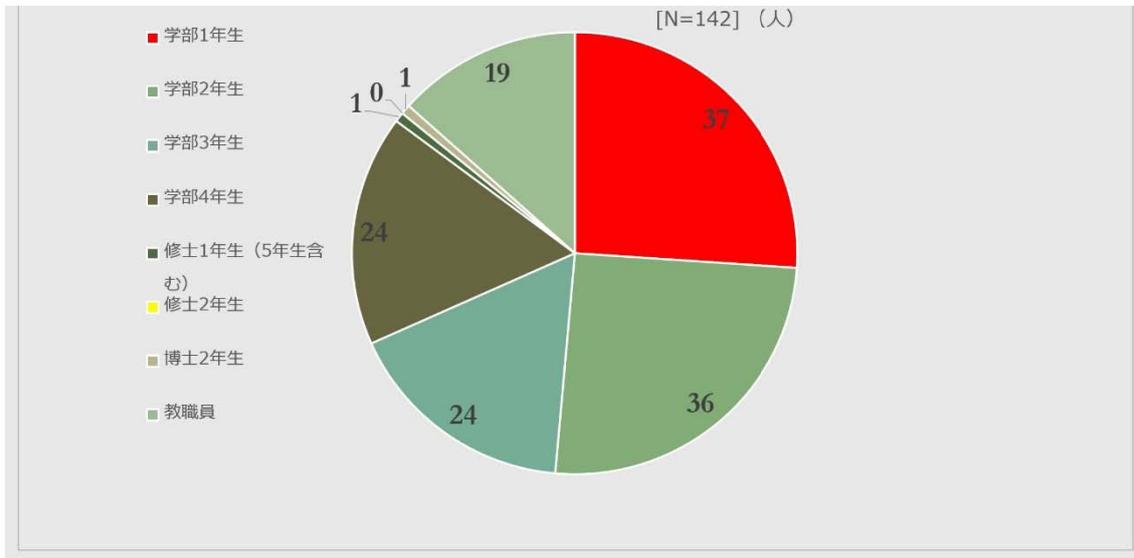
LINKtopos 大会別参加者数の推移



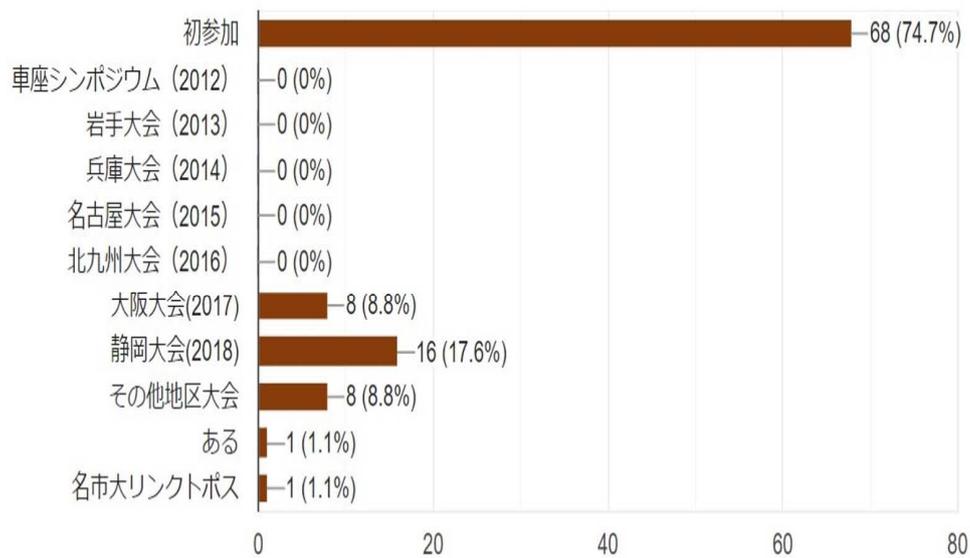
LINKtopos2019 エリア別参加者数



LINKtopos2019 参加者属性



LINKtopos の参加経験



3 活動内容とその成果

3.1 大会1日目

3.1.1 オリエンテーション

【LINKtopos2019 学生委員 兵庫県立大学 看護学部 4年 小西 葵】

○ 概要

オリエンテーションでは、代表挨拶、施設説明、しおり説明、アイスブレイク、運営自己紹介を行った。終了後、男子のみ先に食堂に誘導し、女子を残して月経中の参加者への対応について説明した。挨拶や説明など畏まったものを先に固めて持ってきて、オンオフの切り替えを意識した。事前打ち合わせ不足で、各担当者から引き継ぐ際にすれ違いが生まれてスムーズにできなかった点が悔やまれる。

また、使用するパワーポイントの作成が遅れてしまい、予め会場にセッティングできていなかったため、参加者が到着した時にスクリーンに何も映っていない状況になってしまい、急遽表紙を作成して映すことになってしまった点も反省点である。



3.1.2 ポスターセッション

【LINKtopos2019 学生委員 静岡県立大学 国際関係学部 2年 杉山 芽依】

○ 概要

アイスブレイクの延長として、また全国から集まる学生同士がお互いの活動について知り、交流する機会として設定した。ポスターは5つに分類し、同じ分野のポスターごとに固めて貼った。5分ごとに発表と質疑応答を切り替えるようアナウンスを行ったうえで、終了後はフリータイムとし各自が自由にポスターを見て回る時間を設けた。

○ 成果

LINKtopos への参加の目的が他団体との交流であった学生も多く、違う分野で活動する学生から刺激を受けたり、自分たちの活動に活かせるようなヒントを得ることができたようであった。他大学の学生や教職員の方にアドバイスを求めたり、同じ分野で活動する学生と活発に意見を交換しあったり、実際に協力ができそうな団体同士でつながるといった場面も見られ、1日目に行う活動として、LINKtopos への熱を上げる一つのきっかけとすることができた。

終了後もしばらく会場にとどまって議論を続けたりポスターをじっくり見て回る姿が多く見られたため、ポスターの撤去に少しばらつきが出てしまったが、参加者にとって実りのある時間にできたと考えられる。

○ 課題

会場の都合上、十分なスペースを確保して行うことができず、空調や移動の面で参加者に不自由を強いることになってしまった。しかし、会場が分断されることによって指示が行き渡りづらくなってしまったり、空間的な隔たりが参加者の一体感を損なうきっかけになりかねないという懸念があるため、ポスターセッションを行う際には広くゆとりのある会場を選ぶべきであった。

また、参加者同士の議論が盛んに行われたこともあり、アナウンスがきちんと伝わっていなかったり聞こえていてもしばらく話し続けたりということが多く見受けられた。アナウンスに従って行動した参加者とそうでない参加者の間で、時間通りに行動したにも関わらず発表が最初から聞けないなどといった差が生じてしまったため、タイムキーパーが時間を厳格に管理するとともに事前に発表の目安時間を周知しておくべきであった。

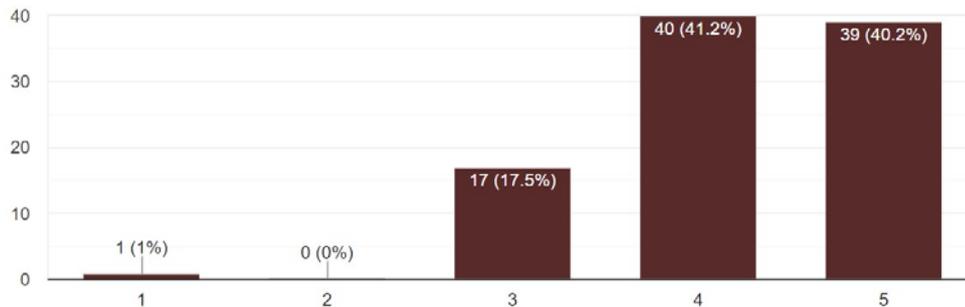
事前にどんな分野や団体が参加しているかを確認して行き先を絞りたいかという声や、見て回る時間が少なかったためもっと多くの団体の発表を聞きたかったとの声が上がったことから、ポスターセッションにかけられた期待を感じるとともに、各団体のポスターについての情報をしおりに掲載したりタイムテーブルへ更なる改善を加えることで、参加者により充実した時間を過ごしてもらえるようにしていくことが必要だと感じた。



3.1.3 大会1日目アンケート結果／参加者の声

<day1>アイスブレイクの満足度について

97件の回答



参加者の声

おもしろい案ばかりで、最初はえーと思ったけどすべてやってみたら楽しかった
お互いに仲良くなれて良かったと思う
簡単に周り打ち解けられて良かった
アイスブレイクの班ではアイスブレイクしかなかったから、ワークショップの班でアイスブレイクからやったらもっと仲が深まったのではないかと思った
たのしかったです
一緒運命考えてくれたから
アイスブレイクは完璧にできたがアイスブレイクした人と関わる機会がほぼなかった
学年を言わない理由が無くても堅苦しい雰囲気だったため。
いい感じに緊張がほぐれて良かった。
中々難しかったけど面白かった
自己紹介がしやすかった
第一印象を急いで考えるのが大変だった。
第一印象を考えるのが大変だった
ハイタッチとかを入れたことで、照れくさはあるけど打ち解けられたから。
おもしろかったです
緊張がほぐれて良かった。
時間が短かった。
人間知恵の輪が面白かったです。
一瞬にしてみんなが笑顔になる企画、とても楽しかったとともにとても勉強になりました。

参加していない

とてもうまくいったと思います。ハイタッチもよかったです。

初めて行うものが多くて新鮮でした。

第一印象を書くのは面白い案だなと思いました。メンバーで協力する系のゲームをひとついれてもいいかなと感じました。

非常に楽しく、メンバーと打ち解けることができた。

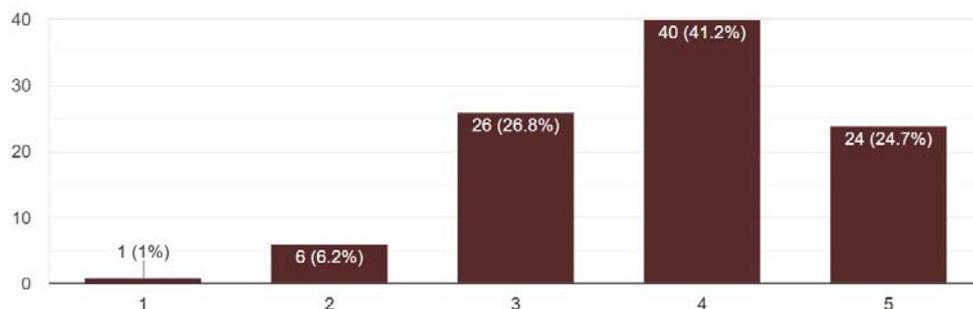
良かったと思います

アイスブレイクで作成したグループでの活動があってもよかったのではないかと思った。

今までにやったことのないことがあるなど、工夫がみられた。一方で、内容にこりすぎていて、肝心の相手の情報が伝わらないこともあった。アイスブレイクする意味ではありだったかもしれないが、自己紹介という意味ではもう少し工夫が必要と感じた。

<day1> ポスターセッションの満足度について

97件の回答



参加者の声

本当に沢山の新しい活動を知り、新しい興味が湧いたり視野が広がった。各団体熱心に語ってくださるので活動の細かなところまで知れる。自分達とは違う活動を知れて良かったスペース的に、うまく聞き回れなかった。

ちょっとスペースの窮屈さと時間の曖昧さが気になりましたー。

通路が狭く、移動したりするのが大変だった。

時間の区切りが奥まで届いてなかった

時間が短かった。もっと他の大学のものを見たかった。

会場に少々無理があるように感じた

広めの廊下か大きなスペースで行っていただけるとありがたい
全体の時間が短かったのと場所が狭かったから。
他の団体の話を詳しく聞けてよかった。、
色々な所の意見が聴けて参考になりました。
時間に忠実な大学ばかりではなかったもので、行ってみたらもう始まって途中から聞くみたいなことが多くありました。ですが、全体としては色々なお話を聴けてとても勉強になりました。
もう少し時間があるとよかった
通路が狭かった。
行き来が不便だった
他大学の活動を知ることができて、自分の活動に生かそうと思いました。
ポスターセッションの前に各団体がどのような内容なのかの紹介が30秒でもいいから欲しかった。それか紹介文をプリントして欲しかった
もう少し時間が欲しかったが、他の団体と交流したり、自分の団体を紹介できてよかった。

3.1.4 大会1日目総括

【LINKtopos2019 代表 大阪市立大学 法学部 3年 中山 一仁】

一日目の集合から数名の参加者の方々が欠席となったことはあったが、特に集合に重大な事故や、大幅な遅延も無くスムーズに集合できた。

会場に着くとオリエンテーション(代表挨拶、アイスブレイクや施設ルールの説明など)をし、上記アンケートにもあるようにアイスブレイクでは多くの参加者が同じグループのメンバーと打ち解けられたということで有意義であった。

ただ、グループによってはほとんど同じ大学のメンバーだったり、男女の割合が偏っていたりしていた為、次年度大会では、大学の散らばりや男女の割合などもより考慮に入れて、グループ決めができるようにしたい。

分科会では、多くの参加者が、「他大学の活動やノウハウを知れてよかった。」「刺激を受けた。」などの声を寄せて頂き、沢山の団体の素晴らしい活動を知れる、また仲間に激励を受けるいい機会になった。

しかし、今大会は、分科会の環境の面で参加者の方々にご不満を募らせてしまったので、次年度ではよりスペースの広い、そして通気性のよい、場所での実施、そして、参加者の声でもあるように、各団体の短い紹介文を集めたものを配るなど、あらかじめ様々な団体を知り、気になる所の話のスムーズに聞けるようなシステムなどあればよいだろう。

3.2 大会2日目

3.2.1 スタートアップ

【LINKtopos2019 学生委員 島根県立大学 総合政策学部 3年 伊藤 璃子】

○ プログラム設定の背景

今年はスタートアップを全体で行わず、ワークショップのテーマ毎に行った。全体で親睦を深めることも重要であるが、フィールドワークやワークショップでは班ごとに活動するためあらかじめ集団行動に対する意識づけをする必要があるのではないかと考えた。

また、少人数で行うことによってグループ内での親睦が深まりやすく、話がしやすくなり、今後のプログラムを円滑に進めやすくなると思い、分割して行った。

○ 目的・意図

1. 楽しんでもらいながら、グループ内での親睦を深めてもらう。
2. フィールドワーク・ワークショップの内容について理解してもらう。

○ 取り組み詳細

各テーマでの内容については、以下、担当ファシリテーターとなった学生委員が記述する。

① イベント

【LINKtopos2019 学生委員 名桜大学 人間健康学部 4年 石澤 まどか】

○ 概要

イベント班のスタートアップでは、アイスブレイク・日程確認・フィールドワークの事前説明を行った。アイスブレイクはワークショップ前の話合いの雰囲気作りも兼ね、自己紹介とワードウルフを行った。和気あいあいとした雰囲気、打ち解けた様子が各班で見られた。また、この時間でその日の動きを確認出来たため、フィールドワークでの移動がスムーズだったように感じる。



② メディア

【LINKtopos2019 学生委員 島根県立大学 総合政策学部 3年 伊藤 璃子】

○ 概要

スタートアップでは、アイスブレイクと当日の予定説明をした。アイスブレイクとしてグループ内で親睦を深め、お互いのことを知ってもらうために4マス自己紹介と人間知恵の輪を行った。その後のワークショップでも和気あいあいと話している姿が見られたため、アイスブレイクの効果があったといえるだろう。そして、当日のプログラムについて説明した後、メディア班では話題提供者様から事前課題が提示されていたことからスタートアップ時に告知をし、町長講演やフィールドワークでの付加価値付けをした。学びをより深められるきっかけになり良かったと思う。



③ 教育

【LINKtopos2019 学生委員 名古屋市立大学 人文社会学部 2年 DALMO MICHAEL】

○ 概要

教育のスタートアップでは、班内の人たちがすぐに打ち解け合えるようにオリジナルのワークショップとそのあとのグループワークの概要について説明した。オリジナルのワークショップとは、二つの付箋に主語と述語を書き加えて、班内の人たちでシャッフルし、新たな言葉を作ってそれをプレゼンするという独創性があふれるものであった。受けるかどうか不安であったが、案外好評だったみたいで、すぐに打ち解け盛り上がっていた。しかし、切り替えもつけることができしており、話題提供者から話を聞く時には集中して話を聞き、フィールドワークで盛り上がる時には盛り上がり、グループワークで話し合う時には笑いながら話し合う姿が多く見られていた。この姿はアイスブレイクの重要性を証明づけるものであると私は確信している。



3.2.2 黒潮町長講演／フィールドワーク

【LINKtopos2019 学生委員 高知県立大学 文化学部 4年 仲宗根 忠史 】

○ プログラム設定の背景

今年は、学長会議と別日程での開催であること、地方開催であることを踏まえ、今まで行ったことのないことを実施したいと考えた。また、開催県が高知県であったため、高知県内でも防災意識の高い黒潮町を選んだ。わざわざ高知県黒潮町という不便なところに集めるのなら、実際に足を運ばないとできない経験を参加学生が得られるようにと考え、このプログラムを設定した。

○ 目的・意図

・黒潮町長講演

1. 黒潮町の防災意識や活動について行政トップから話を聞きインプットする。
2. 実際に訪れた町の話聞くことで少しでも当事者意識を抱けるようにする。

・フィールドワーク

1. 日本一高さを誇る佐賀地区津波避難タワーについて実際に見ながら学ぶ。
2. 佐賀地区津波避難タワーに登り、頂上からの景色を見ながら、佐賀地区の避難意識や訓練の実績等を聞く。
3. 災害時に山越えする避難道に実際にでむき避難訓練を体験する。

○ 手法

・黒潮町長講演

黒潮町長 大西勝也様による1時間半の基調講演を行った。

・フィールドワーク

ワークショップの3班に分かれ1班ごとでコースを回った。コースの順番は

- ①佐賀地区津波避難タワーに駆け上がる。
- ②頂上で黒潮町地域住民課 吉門要様による説明を聞く。
- ③大和田山避難広場にて小・中学生が行っている避難訓練の疑似体験を行う。

○ 取り組み詳細

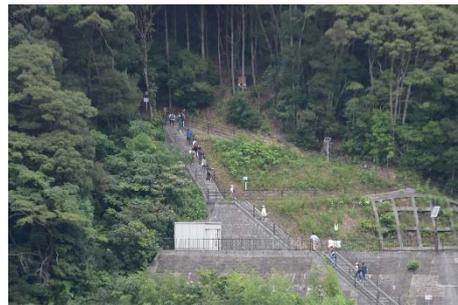
・黒潮町長講演

大西町長による、黒潮町の過去、今、未来像について話していただいた。黒潮町が日本一高い津波が来ると宣言された当時は、町全体にマイナスの雰囲気漂っていたようだ。そこから、役場職員と住民のワークショップを何度も重ねていくことで、町民の意識が変わり現在の手を取り合って乗り越えていきましたよという雰囲気ができたと話していただいた。学生からの質問もあり優位意義な時間であったと感じられる。



・フィールドワーク

日本最大級の佐賀地区津波避難タワーに登る経験ができた。そして、タワーの概要や、佐賀地区の地域住民が行っている避難訓練、防災意識について話を聞くことができた。その後、大和田山避難広場に徒歩で向かい、避難山道の入り口まで駆け上がり体験をすることができた。フィールドワークを通し、実際に黒潮町に来ないと経験できないことを組み込むことで、参加者にここまで来てよかったと実感してもらえるコンテンツとなった。



3.2.3 ワークショップ概要

【LINKtopos2019 学生委員 山陽小野田市立山口東京理科大学 工学部4年 原 大晟】

○ プログラム設定の背景

例年、LINKtopos では地域福祉、地域貢献、防災など異なるテーマから参加者が選択しグループ分けを行いワークショップを行っている。しかし、本来のLINKtopos は防災がテーマであったため、関係者から他のテーマでワークショップを行うことに疑念の声が上がり始めた。

そのため、今大会においては防災のみをテーマとした。そこから3つの項目に分け、リアルで現実味のある解決策を練ることを主題に掲げ、実施した。

○ 目的・意図

防災をテーマに各項目に対して異なる分野を専門とする参加者の各分野の視点から解決案を考える。

○ 手法

予め学生委員会が設定した 3 つの項目から、参加者が興味、関心に応じてグループ分けを行った。その後「話題提供者」の話を受けて、学生委員会が提示する課題に対して議論を行った。解決策を考えるうえでの手法は各項目によって異なる（KJ 法、ブレインストーミング、ワークショップ、SWOT 分析、5W1H など）。

① イベント

話題提供者：西村優美 様(特定非営利活動法人 NPO 砂浜美術館 デザイン室)
テーマ：防災の日(毎年 9 月 1 日)に実施する学生らしい防災に関するイベント

② メディア

話題提供者：竹島章記 様(株式会社高知放送 報道制作局長)
テーマ：災害情報を正しくわかりやすく伝える方法

③ 教育

話題提供者：森永速男 様(兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科 教授)
テーマ：大学生が学ぶべき防災教育とは何か

3.2.4 ワークショップ詳細

① イベント

【LINKtopos2019 学生委員 名古屋市立大学 人文社会学部 2 年 田邊 志織】

○ 概要

「防災×イベント」というコンセプトのもとで、全国の公立大学生が一斉に防災のイベントを行うというテーマにした。NPO 法人砂浜美術館の西村優美さんを話題提供者として呼びし、学生たちにとってあまりなじみのないイベントづくりや一から新しいことを計画・運営するということについてのお話をいただいたのち、5~6 人のグループに参加者を分け、実際にイベントを企画してもらい、その内容を A4 サイズの宣伝用ポスターという形にまとめ、その内容や作成中の話し合いで出てきた意見について発表してもらった。

○ 成果

KJ 法による案出し、ワールドカフェによる他の班との意見交換など、思考を組み上げていく段取りの作成はこちらから提示をした。各班に任せるか迷ったが、低学年のワークショップは初めて、もしくは慣れていないという学生が多かったほか、すべての班にファシリテーター経験がある学生がいたわけではないので、スムーズに進行でき、タイムテーブル通り進んだ。

事前知識にあまり囚われない発想や、「楽しい」という防災の新たな面を明確に示した形になっているなど、直前に行われた FW や黒潮町長の話に言及している内容及び発表が目立っていて、その二つを実施したメリットを示す形になっていたように思う。

○ 課題

こちらが「ポスターに入れて欲しいこと」として示した「タイトル」「日程」「主催」「場所」「内容」「対象者」などの条件については、これによってスムーズに進んだ班もあったが、それ以上の思案を妨げてしまい、指摘があった「5W2H」の不足という結果も同時に招くことになったようにも思った。

9月1日に実際に行うものとしながら、クロージングでは大学ごとに考えて欲しいというなど、こちらの考えと参加者の認識でずれがあったようだった。

WSが初めてという人をかなり考慮した結果、慣れている人からは「思っていたものとは違った」「つまらなかった」という声が多く上がった。他の班を志望していた人が多かったのも原因だと思う。



② メディア

【LINKtopos2019 学生委員 岩手県立大学 社会福祉学部 2年 菊池 眞悠子】

○ 概要

災害時に情報を適切に理解し、行動に移すことができる人は少ない。このことから高知放送・報道制作局長 竹島章記様からテレビなどの報道という観点より「情報の正しさ、伝わる速さ」や「報道局が発信する情報と一般人が発信する情報の違い」についてお話をいただいた。情報が誤って伝わりやすいことを踏まえ、情報の信頼性を上げるために「私たち（学生）ができること」について考えた。また、最終的に「①発表のわかりやすさ②内容の面白さ③生まれる効果の高さ④内容の実現可能性の高さ⑤媒体（資料）の見やすさ」の5つの観点からワークショップ2班の学生のみ投票を行った。

○ 成果

ワークショップの初めに役割を割り振っていたことで、それぞれのグループでまとまりができ、グループ内での意見だし、まとめがスムーズに行われていた。ブレイクストーミングやKJ法など、それぞれのグループでやったことがある人が1人以上おり、説明がうまくいったことも良かったといえる。

情報を届ける相手に信頼してもらうにはどうすればいいのか、実現性はあるのか、いかにひきつける発表をするかなど様々な部分で何度も悩み、工夫をする姿があり、グループ内でお互いにより良い意見にするためのワークショップになっていた。

○ 課題

ワークショップの時間が長いという意見と、短いという意見どちらもあがっていた。また、全体で進行速度をそろえていたため、先に進んでいたグループから特にワークショップの時間が長いという声があった。

また、途中休憩を入れたがほとんどの学生が休憩を取らず活動を続けていたため、自由に休憩が取れる形にしたほうが良いと言える。さらに休憩時間とワールドカフェでの意見交換を同時に行った（他の班の途中経過のポスターを見て、感想や疑問を付箋に書いて渡すやり方のワールドカフェ）が、あまり活用できず他の班との交流をより増やす必要があった。



③ 教育

【LINKtopos2019 学生委員 山陽小野田市立山口東京理科大学 工学部 4年 原 大晟】

○ 概要

県外から公立大学に入学した学生は、居住地域の防災についての知識が欠如している場合も少なくない。そのため、災害が起こった場合に適切な行動ができないと考えられる。そこで、兵庫県立大学大学院減災復興政策研究科教授 森永速男先生のお話を聞いて参加者には災害が起こった場合どう行動するかを学ぶためにはどういった教育の場、授業内容が必要かを考えるワークショップに取り組んでもらった。

○ 成果

ワークショップを通じて地域の防災知識が欠如していることを認識し、どうすれば知識が得られるかの手法を学ぶことができた。客観的に地域のことを見ることができたので地域と学生が協力するうえでの問題点も知ることができた。それ以外にもチームとして自分の役割を果たすためにどうすればよいかを各々が考えながら行動できていた。

○ 課題

今回、初めてワークショップに参加された学生さんがいたため時間配分をどうすればいいか分からず全体的にスケジュールと同じように進行することができずブレインストーミングやKJ法などの時間を延ばしたためワークショップのスケジュールは時間に余裕を持つ必要があった。

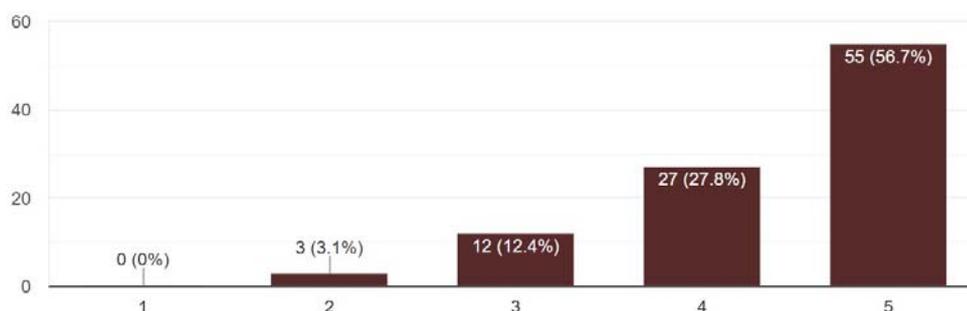
今回のワークショップでは実現性があるものを考えてもらったが、実現までの過程が不明確であるところ、具体性に欠けているところなど、それぞれに課題が残った。ワークショップを行う上で何を大切にするかを明確にするだけでなく判断基準が必要であった。



3.2.5 大会2日目アンケート結果／参加者の声

<day2> 町長講演の満足度について

97件の回答



参加者の声

たのしかったです。

当たり障りのない話って感じだった

もっと、ホンネを知りたかった

単純に聞きたいと思える内容だった

ためになるお話でした

新しい角度から切り込んでいったのが面白かったです。

しっかりと考えを持った方のお話で、聞いてて興味深かった。

面白かったけど事前に調べてたことと被っててもう少し詳しい話聞きたかったかなと思います。

ためになる話が聞けた

後ろが後ろすぎて見えなかった。

内容は今まで聞いたことのない話を聞いて良かった。

実際に取り組んでいることなど生の声を聞いてよかった。

良い話が聞けた。

防災への意識が変わって、地元の防災についても考えようと思った。

とてもためになった

貴重なお話が聞いてよかった。

実際に津波対策を行っている町長の意見を聞く機会はなかなかないため、参考になった。自助力の大切さを改めて感じた。

話がうまかったです。

人を動かすには、単位を小さくすると良いという学びを得ることができました。

リアルな話で参考になりました。寝ている学生がいたのが残念でした。

災害対策に関する行政の方の意見を聞く機会が今までなかったので、とても良い経験でした。

カルテを作っているのがすごいなと思いました。情報提供していただいたので十分に活用したいと思います。

市民主体の防災、防災を楽しく考えるという観点から貴重なお話しを伺え、満足できた。

貴重な話を聞けたと思う

黒潮町民の防災意識を高めるための取り組みの工夫がサークルにも活かせると思ったのでとてもよい話が聞けました。

単純に話の上手な人だったので、聞き飽きすることなく内容を理解できた。もう少し質疑応答の時間があるとより理解を深められたと思う。

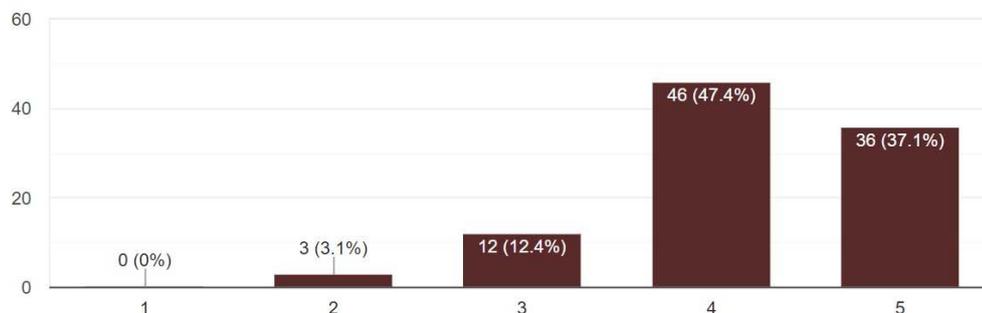
34.4m というのを突きつけられてから、どういう風に前向きに立ち向かっていくか、具体的にやっていること、

防災の本質について色々と聞けたのはよかった

町長の地元愛を感じられた。

<day2> フィールドワークの満足度について

97件の回答



参加者の声

もう少し町に出たかった。

講演の方で時間余ってた割になんかバタバタしてた気がします。

時間が短かった

フィールドワークって、もっと地域へ出て行くべきなのに、防災タワー見て終わりだった

もっとゆっくり見たかった

1班だけマラソン大会のように走ったため1つ減らしました。

走りに走って、遠足の後の団結感？が味わえたことは良かったと思います。

取り敢えず疲れた。

危機感を感じれた

内陸に住んでいるので避難道は駆け上がる機会がなかったので貴重な経験ができた。

あの気温の中で【全員走るのが当たり前だね】という感じがあり、配慮ができていない。

とても疲れたが、避難場所に逃げるということを経験することができたのは意味のあることだと思った

黒潮町がどれだけ防災について意識しているかを知ることができた。

防災の取り組みが活発な町を実際に見ることで、吸収することができました。

実際歩いて体験することができたから

良い経験になったけれど、走りすぎて筋肉痛です。

実際に津波が来ることを想定したフィールドワークはインパクトが大きかった。しかし、スムーズに動くためには何時にどこまで行くのか、あらかじめ教えて欲しいと思った。せっかく高知まで来たので、もう少しフィールドワークを増やしても良いと思った。

防災タワーの階段の回り方についてです。

陸上などのトラックでは、右足に力が入る？人が多いので、左回りだと思うのですが、防災タワーは右回りでした。左右対称にしても建つような設計であったため、何か意図があったのであれば教えていただきたいです。（無理を言ってすみません。できれば大丈夫です。）

もっと調査することがあるとよかったとおもいます。

とてもつらかったのですが、実際に体験をしなければこのつらさや、課題点を見つけられなかったので良かったです。

黒潮町の取組や地域の雰囲気を知ることができ、大変良かった。これがなければここに来た充実感を感じられなかったと思う

天候になんとか恵まれて良かったです。フィールドワークがあったのがその後のワークに生きたと思います。

避難タワーに実際にのぼり、黒潮町の災害対策について知ることができ良かったです。

自分の足で登って経験することがなかなか出来ないので貴重な経験になった。

実際に現地足を運び現場を見ることは課題解決や企画立案を行う上で必須であると考えるので是非続けてほしい。

滅多に登れないので貴重な経験だった

津波を想定して避難タワーに逃げる体験が疲れたけど、とてもいい経験になった。

実際に時分の足で津波避難タワーに登ったり、避難場所に行ったりとした経験はなかなかしないことなので、貴重であった。一方で、フィールドワークとワークショップの繋がりをあまり見いだすことができず、フィールドワークをしたのはなぜかわかりづらかった。

色々見れたのはすごくいい体験となったが、もっとゆっくり質問とか話を聞きたかった。黒潮町が先進自治体と言われる所以の一つが防災タワーであると認識しているが、その割に防災タワーの見学にかかる時間が少なかったように思われる。町の職員の方との質疑応答や、特徴的である居住スペースの見学の時間も取っていただきたいかった。

避難道に関しては東北でも整備が進むなど、ここでしか見れないものではないため、必須の見学項目では無かったと感じる。また、不用意に焦らせる、ゴール地点に人が立っていないなどの手違いもあった。

実際にタワーに登り、避難道を登り、大変さと同時に、こんなに高いところまで登らないと助からないという恐怖心も感じました。

自分の地域では津波が来ることはないかと思いますが、地震や災害の被害は大きいです。その土地の風土に合わせて、被害を想定しながら実際に行動することで、肌で感じることはとても大切だと思いました。

走らされて、目標より高い位置に登らされたけど楽しかった。

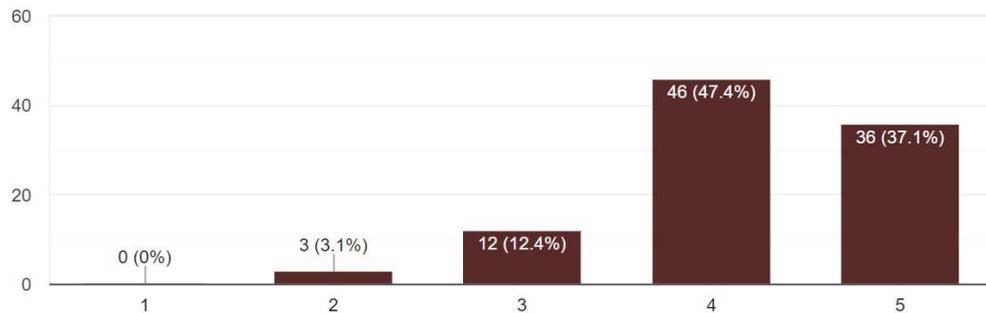
内容はよかったが、時間がぎりぎりでした。

避難タワーや佐賀市など実際に行ってみたいと感じられないものを知ることが出来た。

避難経路、避難場所について考えることができました。

<day2> フィールドワークの満足度について

97件の回答



参加者の声

皆んなで作り上げられたのがよかった

班の仲が深まりすぎた

いろんな意見が聞けて良かったです。

時間が足りなかった

時間が長すぎて暇だった。

テーマが具体的かつ広めに設定されていて自由に議論ができた。運営の方が調整を頑張ってくれたおかげだと思うが、時間的なゆとりもあってディープな議論ができたと感じた。

場所が悪かったため。

初対面の人となにか作るのは初めてだったので、新鮮だった。

意見ぶつかることもあったけど考えが深まりました。

大学ではやる気には差があり、真剣な話し合うことが出来なかつたりしたのですが、さすがLINKtoposに来る人は違うなあと思いました。運営の方もとても大変だったと思います。真剣に取り組んでくださり、ありがとうございました。

大学生を対象にしていたが、自分たちの大学の規模が各々違うのでそれぞれの想像している大学の規模に差があってやりにくかった。

学生として出来ること、実現可能性などを加味して考えるというのがとても難しかったが有意義な時間だった。

班員と協力できたと感じる。

黒潮町長のお話や、話題提供者さんの話を踏まえて自分たちで防災について考えることが出来たし、周りの意見も聞いて味方がひろがった。

テーマがよかった。もっと参加学生に主体的にファシリテーションをさせても良いかも。

何のために防災のイベントをするのかを考えられてよかった。

各専門分野の異なる学生が様々な視点から意見を交わすことができ、良い発表に繋がったと思う。どのような流れで行うのかといった意図をあらかじめ説明してくれた方が最終目標が分かって話しやすかったのではないかな。

楽しく話せました。グループで協力して仲良く取り組めたのでとても良かった。

同じ班のメンバーに刺激をもらいました。また、他の班のアイデアに感銘を受け、自分の学び方を見直すきっかけをいただきました。

概ね学生の熱い議論が繰り広げられており良かったが、防災イベント立案のワークショップでは、条件が少なすぎて、背反する意見が出にくかったように思う。そのため、議論があまり深まらず、発表に対する質問も出ないような状態になったのではないだろうか。

どの班もレベルが高い発表でした。

防災についてより深く考えるきっかけとなりました。とても楽しかったです。

クロージングでのワークショップの共有のとき、授業・情報の班はワークショップの発表内容についての紹介がなかったので、イベント班のようにひと言ずつくらいで良いので紹介をして欲しかったです。

短時間の中で密度の濃い話が出来て、とても有意義だった。

WSを通し、メンバーの方々から様々な能力を吸収することができたと思う。ただ、企画の立案に上手く携われなかったことが反省点である。

先輩方が凄かった。

3.2.6 大会2日目総括

【LINKtopos2019 代表 大阪市立大学 法学部 3年 中山 一仁】

町長講演では、町長講演の住民を引っ張るリーダーシップ性や、規模間の大きいものを小単位に分割し、ワークショップや町民会議を開催するなどの取り組み等から学びを多く得ているようで、とても有意義であった。

フィールドワークでは、天気恵まれ、全グループフィールドワークに出向くことができたが、坂を上る際にどこまで上るのかを明確に決められていなかったこと、坂まで行く際に、走っていくのか、歩いていくのか決められていなかったことなどから、改善を求める声が多くあったので、次年度大会では、こまかな点までメンバー間で調整する必要がある。また、フィールドワークの振り返りの時間もデザインできていればより参加者の方々の学びを深められた。しかし、実際に現地にでるという機会、現地の取り組みを実際に目の当たりにする機会は有意義であった。

ワークショップでは、多くの方に、同じグループのメンバー達との議論を楽しめたこと、意見の交換をする中で、多くの学びがあったという声を寄せて頂いた。やはり、ワークショップは、小単位の交流で長時間の議論ができるため密度も濃く、非常に有意義である。

3.3 大会3日目

3.3.1 地区別 LINKtopos

<北海道・東北エリア>

【LINKtopos2019 学生委員 岩手県立大学 社会福祉学部 2年 菊池 眞悠子】

○ 概要

青森保健大学から5名、岩手県立大学から2名、山形県立保健医療大学から1名の参加があった。昨年度東北 LINKtopos の開催ができなかったことを踏まえ、「もし開催するとしたら何がしたいか」「現在の東北の学生の課題」を話し合った。その中で、もっと学生の交流を深めたい、他団体の活動を知りたい、他県の課題を学びたいという意見から「知る」というテーマで東北 LINKtopos の開催を企画することが決まった。

○ 成果

4年生を中心に、司会・タイムキーパーを決めることで学生の主体的な話し合いを行うことができ、学年関係なく、意見を交流できていた。

概要の通り、テーマ「知る」のもと、東北 LINKtopos2019 の代表1名、副代表2名が決まった。開催地として、どの県からも来やすく、大学からも支援が期待できる岩手県が現在候補とされている。今回の LINKtopos2019 in Kochi では他団体との交流が深くでき、満足度の深いものになったことからこの「熱」を東北にもつなげたいという東北 LINKtopos への「やる気」が見受けられたことも良かった点としてあげられる。

○ 課題

今回は、4年生が中心となり司会進行を行ってくれたが、就職活動や試験のため運営として参加が難しいことが予想される。そのため、1・2年生のみの運営メンバーが今後東北 LINKtopos を進めていくことになり、不安な気持ちが見て取ることができた。

基本的に地区別 LINKtopos での話し合いはスムーズに行われたが、少し時間が足りずより深い話し合いを行えなかったことが課題としてあげられる。

また他エリアからもあったように「地区別 LINKtopos を開催する」ことがすでに決まっているような進め方や運営の強要に感じる学生が多かったため、進め方について考え直す必要がある。



<関東・甲信越エリア>

【LINKtopos2019 学生委員 静岡県立大学 国際関係学部 2年 杉山 芽依】

○ 概要

関東地区は未だ地区別 LINKtopos が開催されていないため、実現に向けて話し合いを行った。

今回の地区別 LINKtopos では運営メンバーを始めとした具体的な内容の決定には至らなかった。そのため、今大会について参加者の感想を聞き、今大会で感じたことをもとにして、地区別で開催することになった場合、開催場所やテーマはどのようにするべきかなどの意見を出してもらった。

○ 成果

今大会に関する参加者の意見として、他大学・他分野で活躍する学生との交流によって今までとは異なる多角的な視点から物事を考えられるようになったということや、フィールドワークで実際に防災の町の様子を見られたこと、ワークショップでの意見交換の難しさや違う大学の人とひとつの企画案を作り上げることの楽しさが挙げられた。

地区別で行う際のテーマとしては、フィールドワークの一環としての観光を通じて開催地域の活性化のための課題を探したり、地域の魅力や大学をアピールするためにはどうしたらいいかといった意見交換をすることで地域のもつ良さを知りたいという声が上がった。

地域の活性化や外部への発信については、分野を問わず意見が出しやすいため、様々な分野の学生が集まる LINKtopos のテーマとしてふさわしいのではないかという意見があった。

また関東地区では地区別 LINKtopos が未開催であることを考慮し、他大学の学生との交流に重きを置いて、1日だけでポスターセッションなどの交流をすることから始め、まずは LINKtopos の概要や同じ地区の学生の活動、または地域自体について知る機会を作るのがよいのではないか、という提案があった。

○ 課題

今大会において、そもそも関東地区の参加学生は3年生から院生が主であり、来年の LINKtopos や地区別 LINKtopos への参加ができるかわからないため、運営メンバーとして立候補することや開催について具体的に考えることは難しいという意見があった。

また、関東地区の参加学生は、全員が今大会が初めての参加であったことをファシリテーターを務めた運営委員自身が事前に確認していなかったため、参加者の中で LINKtopos の意義や大会自体への理解が乏しいまま地区別 LINKtopos についての話し合いを進行してしまった点も問題であった。アンケートの回答からも地区別 LINKtopos を開催する前提で進行してしまったことに対し、押し付けのように感じたといったような声が多く上がっていた。開催を強いるものではないといった前提をきちんと明示した上で、議論に対しての前向きかつ活

発な参加を促すことが必要であった。関東地区では学生同士の交流の場が多く設けられていることもあり、あえて関東地区で地区別 LINKtopos を開催するということの意義がわからないという疑問も上がった。

また、ファシリテーターを務めた運営委員自身も地区別 LINKtopos を未経験であったため、参加者に対して概要や開催に向けた展望についての説明が不十分になってしまった点は改善すべきであると感じた。



<東海・北陸エリア>

【LINKtopos2019 学生委員 名古屋市立大学 人文社会学部 2年 田邊 志織】

○ 概要

中部地方の4県（愛知・岐阜・福井・静岡）が集まった。人数も少ないうえに参加校も名古屋市立大学・岐阜薬科大学・福井県立大学・静岡県立大学とかなり絞られており、顔見知りが多いために運営にとって進めづらかったうえ、だらけた。

まず他地区と共通して行っている過去に行われた地区別 LINKtopos の実施状況のスライドの説明をしたあと中部地区でもやりたいというこちらの意見を提示し、その運営に興味がある人はいるかという投げかけをした。

○成果

まずは昨年行った名市大リンクトポスを2019年も実施し、そこに中部地区の他大学学生を招くことで中部地区リンクトポスを実現しようということが決まった。また、後半の時間で複数のグループに分けての話し合いを実施したことで自分の大学の人ばかりと話さずに他の大学の学生と話す時間が生まれ、この機会を有効活用できたように思う。

○課題

初めから他の地区と同じレベル（運営やその代表・副代表の決定）を求められていたうえ、私もそのことに疑問を持たないまま進めてしまったため、過去に前例がない中部地区の参加者たちからは不信な目や厳しい意見が飛び、運営が追い詰められる事態になってしまった。先生方や他の運営メンバーのアドバイスもあって中部地区なりの解決策を示すことができたが、あらかじめ地区ごとの目標や進め方を運営が考えておくべきだったし、運営内の地区別 LINKtopos の担当メンバーに全地区の担当者を一人ずつ入れるべきだったと思う。



<近畿エリア>

【LINKtopos2019 学生委員 兵庫県立大学 看護学部 4年 小西 葵】

○ 概要

昨年の LINKtopos の後から、計 3 地区で地区別 LINKtopos が開催されたため、その全てのプレゼンを行った。近畿地区もその 3 地区のうちの一つであったため、近畿 LINKtopos の説明は特に念入りに行った。プレゼンの最後に、近畿 LINKtopos の運営委員だった参加者に運営をやってみての感想を前で話してもらった。そして、今年の運営委員をしてくれる子はいないか聞き、7 名手が挙がったのを確認し、その中で代表・副代表をしてくれる子はいないか聞くと手が挙がったため、拍手による承認投票により決定した。その後は新代表・副代表に進行を任せ、開催場所、開催時期、テーマの順に話し合い、大まかな内容が決定した。現時点では、開催場所は滋賀県の荒神山自然の家、開催時期は 2.3 月、テーマは環境問題で考えている。なお、詳細は運営委員で話し合う予定であるため、変更する可能性がある。

○ 成果

近畿地区は今年の近畿 LINKtopos に参加してくれたメンバーが多かったからか、とても和気藹々としていて地区別 LINKtopos の開催にも大多数が大賛成であったため、非常に進行しやすく助けられたところがある。今年近畿 LINKtopos の運営委員だったメンバーや、近畿 LINKtopos に参加してくれたメンバーが今年の近畿 LINKtopos の運営委員に多く、地区別 LINKtopos を開催する意義を肌で感じた。新代表・副代表が円滑に進行してくれたこともよかったが、その他の参加者も活発に意見を出してくれ、全員で話し合うことができたことが非常によかったと思う。滋賀県は今年の近畿 LINKtopos には参加していなかったが、滋賀県が開催場所と決まったときに滋賀県立大学の学生が運営をすると名乗り出てくれ、その後も積極的に意見を発言してくれたことから、どんどんと輪が広がっていったように感じた。最初は盛り上がっているメンバーとそうでないメンバーとで温度差があるように感じたが、フォーメーションを円にしたり、各大学で話し合う時間や、同じ大学でない近くの人と話し合う時間を作ったことで上手く打ち解けたと思う。参加者から、近畿の雰囲気がすごく好きだった、楽しかったという声が多く、大会終了後も互いのイベントに参加している様子もうかがえ、近畿地区の繋がりが強固になったと言える。

○ 課題

意見の中に、自分が4回生だから、もう関わることができなくて疎外感を感じたとあった。確かに、最終学年であると運営委員として深く関わることは難しく、自分が参加できない可能性の高い大会について考えるのはどうなんだという意見が出てもおかしくない。4回生にはアドバイザーとしての役割を担ってもらいたかったが、それで納得がいくのかということと難しいところかもしれない。4回生の関わり方について検討する必要がある。



<中・四国エリア>

【LINKtopos2019 学生委員 高知県立大学 文化学部 4年 仲宗根 忠史】

○ 概要

過去に行われた地区別 LINKtopos について共有し、今年も各地区で地区別 LINKtopos を開催できるように促す時間となった。中四国に関しては、今年3月に開催したため、開催に至った経緯などを細かく伝える時間をとった。

○ 成果

今回の参加者から6人の運営メンバーが名乗りをあげた。開催時期は学生が活動しやすい春休みとなった。開催県は代表が在住する岡山県となった。テーマのプレストを行い、開催テーマを数個に絞ることができた。決まったテーマは、魅力発見&郷土料理・文化&地元愛について取り組むことに決まった。

これ以降は、運営学生のLINEグループが作成されやりとりが進むように促すことができた。

○ 課題

今回、参加人数が多かった、岡山県立大と高知県立大の学生だけの運営メンバーとなったため、他大学の参画がしづらいことになってしまった。また、参加学生の中からファシリテーター役を担う学生が出ず、運営メンバーがずっと仕切ることになってしまった。代表が決まった時点でバトンタッチすることができたが、早い段階から参加学生同士の話し合いに持っていけるのではないかと感じた。また、参加学生の中で議事録をとる学生がおらず事前に役割を指定するべきだったのではないかと感じた。



<九州・沖縄エリア>

【LINKtopos2019 学生委員 長崎県立大学 地域創造学部 4年 仲島 あかり】

○ 概要

今年2月に長崎県立大学で開催された第1回九州・沖縄LINKtoposを振り返り、これからも続けてくためには次回はどのような内容で行うか、またその大会の代表、副代表そして運営の学生を募った。この大会を機にさらに九州・沖縄でのつながりを強めるためにアイスブレイクを行った。

○ 成果

運営をしてくれる学生として、4名が名乗りを上げた。推薦ではなく自ら手を挙げてくれたことがよかった。また序盤から和やかな雰囲気であり、次回の九州・沖縄LINKtoposの開催地を決める際にはさまざまな地域が挙がり、長期休暇中の開催が望まれていることがわかった。サイレントで身振り手振りを使って様々なアイスブレイクを行うことができ、あまり地域での交流が無かった今回のLINKtoposで少しでも触れ合う時間がとれたのはよかったと考える。その後はLINEのグループも作成し、自己紹介をする時間が無かったため、ノート機能を利用して自己紹介をしている。

○ 課題

次回の九州・沖縄LINKtoposの開催地や代表まではそこで決定できなかった。沖縄はどうしても交通費がかかるため、中間地点として熊本や一度全国大会盤を開催している北九州も挙げられた。また最初から大学別で固まっていたため、早めのアイスブレイクを促すことでさらに交流ができたのではないかと考える。



3.3.2 クロージング

【LINKtopos2019 学生委員 岩手県立大学 社会福祉学部 2年 菊池 眞悠子】

○ プログラム設定の背景

毎年、参加した学生の多くが刺激や学びを得て、やる気を持った状態で帰路につく。しかし、実際に大学に戻るとみるみるうちにそのやる気は小さくなり、活動につながらないことがある。このことから、チームを分けて行ったワークショップの共有とともに、参加学生が大学に戻ってからもやる気を持続して持っていただけるような締め方にしたいということで、来年の LINKtopos の動きや運営からの言葉に時間を多く取った。

○ 目的・意図

- ・3日間の振り返りによって、学んだことを整理するため
- ・参加学生がそれぞれの大学に戻ってからも活動に対してのやる気を継続して持ってもらうため

○ 取り組み詳細

・代表からの言葉

三日間行われた LINKtopos2019 in Kochi の総括として、代表中山一仁より参加学生・協力してくださった多くの方々に感謝を述べた。

・ワークショップの活動内容の共有

ワークショップでは、イベント、メディア、教育の3テーマに分けて行ったため、それぞれのテーマでどのようなアイデアや取り組みがあったのか共有した。他のテーマについて知ることができたという意見や、もっと丁寧に共有をしてほしかったという意見もあった。

・来年度の動き（防災の日のイベント、2020年のLINKtopos運営について）

ワークショップテーマ、イベントで出されたアイデアをもとに来年の防災の日に実施するイベントの参加者や企画案募集の告知を行った。また、来年度のLINKtopos 学生委員の募集も行った。

・震災時の話

2019年度の学生委員より東日本大震災の岩手県沿岸部について紹介した。

・動画

3日間の写真をまとめた動画を作成し、参加学生に振り返りとして見てもらった。

・企画チーム主査の清原先生からの講評

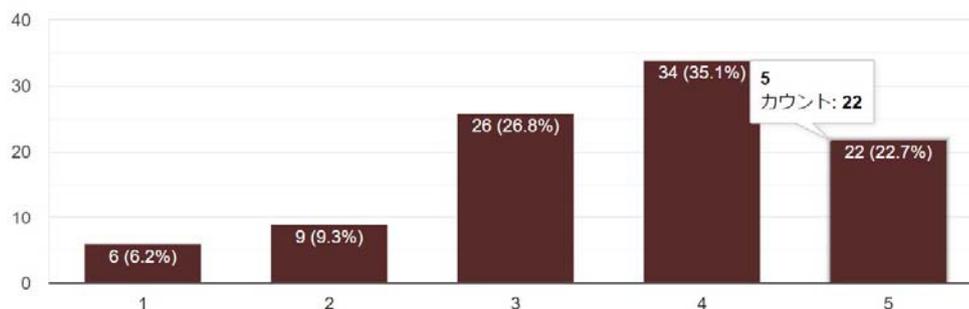
今回高知県で開催されたことから、清原先生より講評をいただいた。

クロージングとして40分間時間があったが、移動や写真撮影など時間が延びることを考慮して5分時間の余裕をつくった。実際に開始まで2~3分遅れたため、5分ほどの余裕のための時間が必要といえる。

3.3.3 大会3日目アンケート結果／参加者の声

<day3> 地区別LINKtoposの満足度について

97件の回答



参加者の声

少し進め方が難しかったです

ファシリさんに当たってしまう議論になってしまい申し訳なかったです。

運営や代表希望を募るには時期尚早というか、みんなもうちょい考える時間あっても良かったかなって思います。

強制された感じがあった

学生が自らの力を伸ばすためにやっているのに、中部地区の運営の子が圧力をかけられ辛い思いをするのはおかしいと思った

仲があまり深められなかった

突然の勧誘、、、新興宗教か?!と思った

必要性があまり感じられませんでした。

地区別の開催の話を知る機会を得られて良かった。

三日間あっても話せなかった人と話せて良かったです。

運営の方々と私たちの間で考えの相違があり、少し話し合いが難航してしまいました。もう少し詳しく地域別 LINKtopos について書かれてあっても良かったかな、と思います。

地区別では何をやるのかわからないうちに始まったのももう少し事前の説明が欲しかった。

地区別で開きたいというのはわかるが単なる押しつけである。学びや集いは自主的にするものであり非常にその姿勢は不満であった。

実際に開催され、継続されていくことが大事だと思った。

無理にいろいろ決める必要は無いと思う。

ある程度今後の方針が決まったから

地区別 LINKtopos という企画自体は興味深いと思うが、突然開催するので運営や企画を立案して下さいと言われても、各団体の活動テーマも異なり、学校の都合や予算のことなどその場だけで決められることではないため、難しいと思う。まずは各地区で LINKtopos というものを広め、公立大学の輪を広げる必要があると思う。

来年以降は参加できないので、モチベーションの上がり方に、他の回生の方との差を少し感じました。

意見交換ができて楽しかったです。

なぜ地区別 LINKtopos を行うのか、目的や背景があまり理解できていないまま話が進んでしまったのと、1時間という時間で内容、運営メンバーを決めるのは難しいと感じました。

前提条件が不明瞭であり、進行役の方も効果的なファシリテートをされていなかったため、参加学生が意図が分からぬまま振り回されたように感じた

団体の代表が参加しているわけではないので、その場で参加不参加を判断するのは難しいかもしれません。こちら支援ができず申し訳ないことをしました。

3.3.4 大会3日目総括

【LINKtopos2019 代表 大阪市立大学 法学部 3年 中山 一仁】

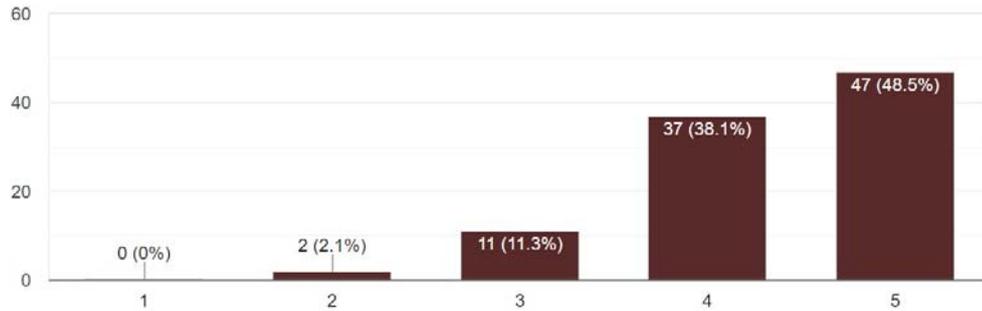
地区別 LINKtopos では、こちらの意図として、地区別 LINKtopos を開催する上で、開催メンバーを集めるというものがあったため、そもそも地区別 LINKtopos をそれぞれの地域で開催する前提で、議論を始めてしまったのだが、このために多くの方に、強制的に議論に参加させられているような感覚を持たせてしまったことは大いに反省すべき点である。中々開催実績の少ないエリアでは、不安も開催する負担も多いことが、原因であった。一方、近畿エリアでは過去の開催実績もあるためテンポよく地区別 LINKtopos の代表副代表が決まり、開催地などについても検討できたので、今後は地域別 LINKtopos の在り方について、運営の間での議論も進めていかなければいけない。

3.4 プログラム全体をとおして

3.4.1 プログラム全体のアンケート結果／参加者の声

LINKtopos 2019 in Kochi 全体の満足度について

97 件の回答



参加者の声

他大学と交流することもできたし、刺激を受けた。

全国の学生と意見交換できてとても充実した3日間になったから

沢山のひとと仲良くなれた

全体グループの共有がもう少し欲しかった

色んな大学のひとと話せて楽しかったです

代表が親しみやすい

交流の機会をたくさん作っていただけで非常に楽しかったです。

目的達成率が半分程度の為

とても良かったんだけど、最後の地区別リンクトポスで、突然運営に入れ、会長になれと言われて、運営勧誘のための研修会だったのか？？？？と思いました。騙された？というか、びっくりしました

代表が親しみやすかった！

内容が詰まっていた面白かったから

2日目にモリモリ朝食を食べたあとに坂道ダッシュがありたまげましたが、前回より全体的にゆとりがあり自分がしたい行動をできて非常に良かった。

ポスターを見る機会がもうちょっと欲しかった以外はとても良かったと思ったから。

色んなひとと知り合えてワークショップも色々な意見を聞くことが出来たから

高知に初めて来たので、もう少し街を見たかったです。

様々な団体の話を聞いたから

たくさんの人と仲良くなれたから。

運営の人数が少ないのもわかるが不備が多すぎる。ポスターのアンケートを何度も出したのに、出していないお前らが悪いみたいな扱いをされた。電子でポスターを送った意味も良くわからない。また指示に一貫性がまったくなく何に従えばいいのかわからなかった。せめてメンバー内での共有をしてほしい。資料訂正などはみんなの前でしていただきたい。

普段では関わることのできない地域の学生と交流することができたから

とても濃い3日間だった。ただ、避難するために高台に登るのがとても辛かった。

全国のみなさんからの刺激が多くて充実した3日間になりました。マイナス1点は、自分の知識不足とかで積極的に話し合いに参加できなかったことが理由です。

FWがとても身になるものであったから

多くの学生と交流でき、色々な考え方を知ることができたから。

事前に何をやるかについての連絡がなく、先が読めなかった。

参加者の方・運営の方が気さくで楽しく交流できたからです。

ポスターセッションやFW、WSは他大学の活動や自分にはなかった考えを学べてこれ以上になり素晴らしい経験をさせていただきました。ただ、地区別LINKtoposが自分の事前調べが不足していたということも悪かったのですが、みんなの理解度と話の進む速度が少し合っていなかったように思えました。しかし全体を通して本当に濃い学びをさせていただき、感謝でいっぱいです。運営のみなさん本当にお疲れ様でした、ありがとうございました。

今回はテーマが設定してあり、参加する団体への声かけもしやすかったがフィールドワークが少ない(高知県の雰囲気あまり感じられない)のと、フィールドワークの振り返りが不十分だと感じたため

運営のみなさんの奮闘に感動しました。本当にお疲れ様でした。

防災というテーマでワークショップをすることがなかったので、とても良い機会となりました。しかし、ポスターセッションで通路が混雑しており、あまり多くの団体の発表を聞くことができなかったのが残念でした。

中身の濃い3日間でした。運営さんも少ない人数でここまで作り上げられているのが、自分も高校の時に携わっていたイベントで運営に苦戦した経験があるので、すごいなと思いました。

数多くの学生の考えや思いを知ることができたと共に、WSを通しメンバーの良い点を吸収できたため。

他の団体の活動について知れたから

テーマと開催地が関係し合っていて、一貫性があった。岡山集合が助かった。運営の準備、気遣いがしっかり行き届いていたように思うので。

全体まとめて今回も行って良かったと思いました。やはり、青少年の家のため、昨年のように

な緊張感はなかったが、人と人の距離が近く、合宿のような和気あいあいとした楽しさがあった。

ポスターセッション、もう少し広いスペースでできれば良かったなど。

いろんな知識や観点を持った人達との交流はとても新鮮なものでした。班のメンバーも最高でした◎

初日のみの参加だったので。

運営と参加者のすれ違いを多く感じたため

たくさんの人と関わられたこと

多くの初めて知り合う様々な意見を持っている人々と活動についても雑談も沢山できて色々な活動や考えなどが知れたから。また交流を通して視野が広がり、協力しましょうなど活動の幅も広げることができるから。

自分が望んでいたものより遥かに大きなものを他の人の話から得られたから

3.4.2 プログラム全体の総括

【LINKtopos2019 代表 大阪市立大学 法学部 3年 中山 一仁】

三日間のコンテンツを考えることにおよそ半年以上費やし、特に今大会は実際にフィールドワークを実施するという一方で、百名を超える参加者の行動をデザインする難しさや、3日間で参加者の方々にどんな学びを提供するか、その学びはどうすれば効果的に参加者の方々に届けられるか、など運営のメンバーの間でも沢山の議論があった。全体としてはまずまず好評いただいた今大会だがやはり、細かいところで運営側の不誠実な対応について言及頂いたり、実際に現地を見る時間が短く、高知まで行った意味を感じられないといたり、無理やり活動を強いられているような感覚を地区別 LINKtopos で持たせてしまったことは大いに反省すべき点である。だが、「実際に防災先進自治体である高知の取り組みを知れてよかった。」、「たくさんの方々の活動を知ることができ参考になった。」、「大会が終わっても頑張ろうと思った。ヒントが見つかった。」などの声が多くあり、今大会のテーマの、「防災を学ぶ」ということと、「参加者一人一人にとって一歩先に歩みだせるように」というものは実現できた。また、今回は例年では少なかったフィールドワークの時間も取り、それに対して、多くの方が「実際に外にでて学ぶこと」に関して、高い評価を頂けたことも、成果としてあげられる。

4 次年度以降の大会開催に向けての課題と提言

【LINKtopos2019 代表 大阪市立大学 法学部 3年 中山 一仁】

今回の地区別 LINKtopos で明らかになったが、やはり地区別 LINKtopos の開催実績がない、もしくは少ない地域ではやはり継続的に開催することが難しい様に思う。しかし、確かに地区別 LINKtopos は全国 LINKtopos より参加者の距離も近く、協力できることも多いであろうことから、その開催の価値はあるので、何らかの形で公大協や LINKtopos 学生運営メンバーがその開催に協力することが期待される。開催の際には、学生のみでの力では中々資金面や物的リソースなどが乏しく実行力に乏しいので是非多方面（公大協や各大学など）からの支援も大切である。

5 全国公立大学学生大会の今後の展望

【LINKtopos2019 代表 大阪市立大学 法学部 3年 中山 一仁】

① LINKtopos の熱量をさらに伝播させていく

LINKtopos は規模も大きくなっており、学生の熱も高く大変価値のある大会であるが全公立大学がかかわっているわけではなく、また、国立大学や私立大学にはあまり知られておらず知名度が低い。防災や地域活動は公立大学生の中でのみ盛り上がるよりも、全大学で盛り上げられることが最善である。ゆえに今後は外部での広報も力をいれていきたい。

② 近隣大学同士でのつながりを強化すること

全国の学生と知り合い、繋がれるのが本大会の強みの一つでもあるが、繋がれていても互いの団体で LINKtopos 後もつながり、互いに切磋琢磨して活動し合えるとさらに良くなっていくと考える。運営としてプログラム中に地区別の強化をはかるとともに企画を練る時間を設けていけると良いと考える。

③ ワークショップでの企画を実現する

LINKtopos では近年、2 日目に 1 日をかけてワークショップを行っている。このワークショップでは見知らぬ人とグループを組み、1つの課題に対して色々な対策案や改善案のアイデアを出している。それは互いに色々な考え方がある多様な価値観や考え方、視野を養うことを目的に行っているが、良い案がいくつも上がっている中でそれらに対しては特に目を向けていないのが現状である。今後の展望として、これらの案を運営スタッフや支援者と見直し、実現可能なものにしていくことが熱量継続等にも繋がっていくと考える。

6 謝辞

平成 31 年度全国公立大学学生大会 LINKtopos の開催に際して、ご指導・ご支援をいただきました公立大学協会ワーキンググループ委員の先生方、公立大学協会の事務局職員の皆さま、そして会場運営に協力していただきました高知県立大学の学生・職員の皆さま、運営として活動して下さった学生の皆様に、この場をお借りして御礼申し上げます。

今年度で 7 年目となりました、本大会も盛況で終えることができたのは、参加していただきました学生・教員・職員・学長の皆さまのご協力とご理解があってこそそのものと感じております。改めて協力していただいた多くの皆さまへ、心から感謝の気持ちと御礼を申し上げます。これからもお力をお借りすることが多々あると思いますが何卒宜しくお願い致します。重ねて、ご協力して下さった皆様誠にありがとうございました。

令和元年度 公立大学学生ネットワーク 代表
大阪市立大学 3 年
中山 一仁

